

病院のがん登録実務者に対する支—大阪の現状—

松本 吉史* 石田 理恵 岡元 かおり 井上 容子
井岡 亜希子 宮代 勲 津熊 秀明

1. 背景

大阪府では 2012 年度にがん拠点病院数が 60 施設（国・府指定）となり、また、近年では地域がん登録への参画の有無が DPC の機能評価係数Ⅱの地域医療指数として評価され、経営への影響も大きいことから、各施設におけるがん登録への関心は高まっている。

2. 目的

がん登録の精度向上に向けて、各施設のがん登録実務者への支援体制を構築し実施する。

3. 方法

各施設におけるがん登録実務者は経験年数、職種などは様々であるため、院内がん登録支援を下記のとおり実施した。

- ① これからがん登録を始められる施設に対する「模擬カルテを用いたがん登録研修」。
- ② がん登録実務のレベルアップを目指す施設に対する「がん登録実務者研修」（その際に研修内容に関するアンケートを実施）。
- ③ 質問対応（メールまたは来訪）と実務者マニュアルの作成。

4. 結果

「模擬カルテを用いたがん登録研修」については、登録候補見つけ出しや登録作業の基礎に重点を置いた。研修は全 5 回、1 回 3 時間 30 分とし、4 施設が受講した。「がん登録実務者研修」については、2011 年度は 7 月（58 施設 107 名参加）、11 月（81 施設 131 名参加）に開催した。アンケートでは、「主要 5 部位以外」「データ活用」「UICC 第 7 版」順に、研修内容に対する要望が多かった。質問対応については、2011 年度はメールが 140 件、来訪が 2 件で、マニュアルについては、実務で使用する項目のうち病期分類と臨床進行度を整理し、要望のあった施設に配布した。

5. 今後の展開

2012 年度は現状に加え、実務者マニュアルの充実、ホームページでの情報配信を強化、研修内容の充実を図りたいと考えるが、特に実務者研修開催については各府県が別々に開催するのではなく、広域（例えば近畿ブロック）での研修の共有を検討していく。実務者目線のがん登録支援を実施するためには、がん登録実務者のニーズ把握が必須と考えられ、今後、がん登録に関するニーズを調査する予定である。